



地区社協 & トモニー

地区社協と共に

Vol.03

“地区社協&トモニー”は、地区社協へ向けて区社協が発信する、不定期のトピックス！
トモニーの名前の由来のように、『共に』歩み、『共に』福祉を進めて行きたいと願って。

編集：南区社協 TEL260-2510

「地区社協&トモニー」Vol.3 は、昨年 12/12 に行われた地区社協リーダー研修会の大特集です！

ここ数年、日本各地で震災や風水害が発生し、**天災** が身近な問題となっています。

今年度の地区社協リーダー研修会では、 **大地震！地区社協は何をするのか？**

をテーマに、災害に向けて地区社協が取り組むことを検討しました。



*1 地区社協リーダー研修会

地区社協の会長・事務局長を対象にした研修。年に 1 回、地区社協活動を進める手助けを目的に実施。
これまでのテーマは「伝える技術向上研修」「計画を行動にする方法」など。



1. 基調講演 「災害時の様々なたすけあい」
講師 金沢区社協 和泉 事務局長

新潟中越沖地震の支援に参加。倒壊家屋の写真などを紹介しながら、現地の様子、ボランティアの活動状況などの報告がありました。

◆ 命を助けた“近所づきあい” ～阪神淡路大震災の例 一人暮らしの A さん（高齢）の家屋が倒壊！！

近所の人たち「普段、どこでどうしているか、大抵わかる。

しかし、よく行く場所にいない。彼女は家のなかにいる」
救急隊を呼ぶが来る気配がないため、近隣の数人で屋根瓦をはずし始める・・・。
その後、救急隊が到着。円滑な救助につながった。

✔ Aさんの普段の様子をご近所が知っていたから、命が助かった！
もし、誰も知らなかったら・・・。



◆ 発災後、復旧状況により必要なボランティア活動は変わっていく

- * 発災直後 → 避難所サポート
- * 余震がおさまった後 → 個人宅の片付け
- * 粗大ゴミ収集開始後 → 粗大ゴミ搬出、個人宅の片付け
- * 仮設住宅の鍵引渡し後 → 仮設住宅入居者支援、引越し、コミュニティーづくり

✔ 炊き出しなどのボランティアは最初の数日間。
時間の経過とともに、日常的な生活に関わるボランティア活動が求められる。

◆ 災害ボランティアセンターの原則は、「被災者の自立と復旧の能力を支えること」 柏崎市ボランティアの3原則「被災者本位」「地元主体」「無理をしない」

✔ 遠方からのボランティアは一時的。いつかは帰ってしまうもの。
最終的には住民のちからで復興、自分達の生活は自分達のちからで。

2. グループ討議 「地区社協での災害への取組み、地区での工夫」

地区社協、連合、町会などでの取組み事例、課題などをグループに分かれて情報交換しました。



取組み・工夫

～主な意見

- * 訓練にあたり、地震規模を想定している
- * 障がい者地域作業所を含んだ訓練の実施
- * 年1回備蓄倉庫のチェックにあわせて訓練を実施
- * 避難所の部屋割りを検討。町会別・負傷者・障がい児者・妊婦など
- * マンションの各階で簡易トイレをつくる方向で話し合いをしている
- * トイレのために各世帯で袋を用意するよう呼びかけている
- * 地域でボランティア登録を検討中
- * エリア内、町単位でマップづくり
- * 要援護者名簿作成のため、個々に訪問して了解を得ながらおこなっている

非常口▶



課題

～主な意見

- * 住民が7,000人位のところに小学校がひとつしかない。現実的に対処できるのか！
- * 地区（防災は町会が中心）と学区（拠点）が入り組んでおり、地理が複雑
- * 避難所へ行くまでの道（地形）が心配
- * 避難訓練に決まった人しか参加しない
- * 訓練のときトイレの組立てを業者がやってしまう
- * 外国人のみの宿舎、社員寮などコミュニケーションがとれない
- * 個人情報を守ることがコミュニティを壊すものとなっている
- * 住民に自分達で対策を考えないといけないという意識がない
- * 発災時に社協としての組織成立たない
- * ボランティアニーズを把握する仕組みづくりが必要
- * 外部から来たボランティアを活動にどう繋げていくのか

3. グループ討議 「横浜で地震が起こったら…」

想定地震をもとに、地域での被害状況をイメージし、発災からの時系列で、「地域が出来ること」「日頃からの活動」を考えました。

【地域が出来ること】

- ◆ 近隣への声の掛合い・安否確認・初期消火活動・救出活動
- ◆ 情報の収集・発信（人手の欲しいところ・災害状況）
- ◆ 食料等の配り方の整理
- ◆ 外部からのボランティアへの地理（道）案内
- ◆ 援助隊を組織（ゴミの片付け・精神的ケアなど）

【日頃からの活動】

- 各家庭へ防災用品の備えや耐震器具の取付けの啓発、特別避難場所の周知
- 高齢者や障がい者が積極的に防災訓練に参加するようになる体制づくり
- 隣同士が知り合っているようにする（顔見知りだと援助しやすい）
- 高齢者・障がい者・在日外国人の把握と、日頃からのコミュニケーション
- 子ども会・青指・体指等と、子どもたちへの対応についての話し合い
- 地域行事に出来るだけ多くの人に参加して、住民の交流を深める（顔の見える関係）
- ボランティアコーディネートのシミュレーション

～世代などを越えたつながりづくりは、地区社協の腕の見せどころ！～



地区社協の事業をとおして、顔見知りに！